

研究発表

学校名 横浜清陵高等学校 P T A

研究テーマ 「P T Aとして在県外国人生徒・保護者のためにできること」

1 はじめに

提案校と決まった時から、私たちはどんなテーマで発表しようか学校と一緒に検討を重ねてきました。その結果、「P T Aとして在県外国人生徒・保護者のためにできること」というテーマに決まりました。何ができるかについては、まだ試行を重ねている段階です。今回は、昨年度から私たちが少しずつ取り組んできたことを中心に発表します。



2 学校紹介

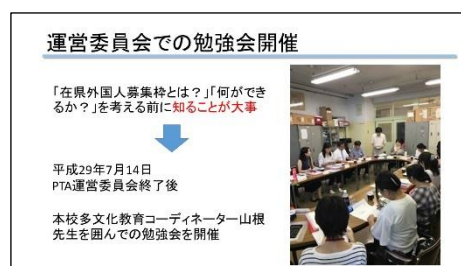
平成16年に清水ヶ丘高等学校と大岡高等学校が再編統合し、県立横浜清陵総合高等学校として新たに開校しました。平成28年、県立高校改革実施計画により、平成29年度から単位制普通科への学科改変を指定され、平成29年4月に横浜清陵高等学校に校名が変わり、学科も総合学科から普通科に変わりました。平成30年度までは総合学科と普通科が混在する状況です。

3 在県外国人を知ろう

校名が変わったことにより、在県外国人募集枠10名が新設されました。

「在県とは一体なんだろう?」「どのようなものなのか?」P T A運営委員会で疑問が出ました。そしてP T Aとして在県外国人生徒・保護者のために何かできないか?といった声があがりました。

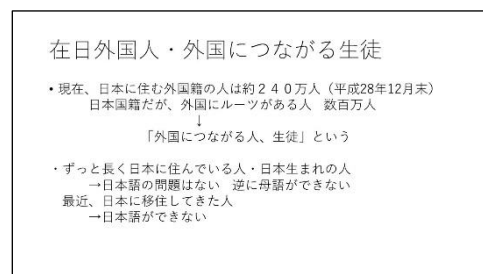
そこで、昨年7月のP T A運営委員会終了後、横浜清陵高校の元社会科の先生で、平成29年度から多文化教育コーディネーターを務めてくださっている山根先生を囲んで勉強会を開催しました。



山根先生の勉強会で使ったスライドの一部をお借りしご紹介いたします。なお、スライド内に出てくる数字は勉強会当時のものです。

日本に住む在日外国人・外国につながる生徒は平成28年12月現在で約240万人。また、日本国籍はあるが外国にルーツがある人は数百万人。その生徒を「外国につながる人・生徒」と呼ぶということを教わりました。

また、ずっと前から日本に住んでいる人や日本生まれの人は日本語の問題はないが、逆に母国語ができない。最近日本に移住してきた人は日本語ができないという実態も教わりました。



日本語指導が必要な外国籍の子どもたちは年々増加し、神奈川県内の公立高校に在籍する日本語指導が必要な生徒数は外国籍生徒552名、日本国籍90名で全国1位。その理由の一つに來

日3年未満の外国籍者または日本国籍取得3年未満の人を対象にした「在県外国人特別募集枠」があげられています。

神奈川県の高校は…

神奈川の公立高校に在籍する日本語指導が必要な生徒（平成28年度）
552名（外国籍）+90名（日本国籍） 全国1位

・その理由
①在県外国人特別募集枠があること
→来日3年未満の外国籍者または日本国籍取得3年未満の者
②定員内不合格を出さないこと
→定員割れをする高校では、受験生全員合格
※多くの定時制高校で定員割れ

平成29年度入試から募集校が13校に拡大しました。横浜清陵高校を含め、6校が新規募集を開始。3校は募集停止しましたが、募集定員も119名から145名になりました。

在県外国人等特別募集

平成29年度入試…3校（神奈川総合、有馬、平塚湘南）募集停止
6校新規募集開始で募集校10校→13校、
募集定員が119名⇒145名に（26名増）

在県外国人等特別募集高校（平成29年度入試の募集定員）
鎌倉総合（10）、横浜国立神奈川（10）、横浜総合（20）、横浜（15）、
荻川（10）、相模原南陵（10）、相模原西陵（定時制・午前部10、午後部10）
新規 藤川南（10）、大井（10）、横浜清陵（10）、横浜市立みなと総合（6）
大和南（10）、伊勢原（10）

しかし、せっかく高校に入学できても、「勉強についていけない」「居場所がない」などの理由で中退する生徒が出るという状況から、平成19年に「多文化教育コーディネーター」制度4校で始まりました。これは、学校と連携しながら、日本語を母語としない生徒に必要な支援方法を考え、適切なサポーターを派遣する制度です。平成29年度には21校に拡大しました。

多文化教育コーディネーター

・高校に入学できても、勉強についていけない、居場所がないなどの理由で、中退してしまう…

↓

平成19年 「多文化教育コーディネーター」制度はじまる（4校）
→学校と連携しながら、日本語を母語としない生徒に必要な支援方法を考え、適切なサポーターを派遣する
※その後、少しずつ増えていき

平成29年 21校に拡大

横浜清陵高校では、平成29年度に10名の在県外国人生徒が入学しました。学校側の支援として、個別対応授業を行ったり、放課後の補習を行ったりしています。居場所作りでは、国際交流部の活動で日本人生徒との交流を図ってい

ますが、どうしても同じ国籍同士で固まってしまい、なかなか交流できていないのが現状です。

日本語が母語でない外国人保護者の実情

- ・PTAが何かわからない
→PTAという組織が母国にないことが多く、その存在を理解できない
- ・活動する余裕がない
→PTAを理解できても、生活に追われ参加できない（これは日本人家庭も同じ）
- ・興味・余裕があっても、言葉の壁があり、参加できない

外国人保護者への配慮の例

- ・PTAの存在、活動目的や意義などを理解してもらうための案内を用意する。（ふりがながある）
→PTAの意義がわかれば、協力を求められる可能性がある
- ・案内プリントの用意だけでなく、説明会の時に通訳をつける
- ・PTA関係の「お知らせ」「広報誌」にふりがなをつける
→すべてふりがなをつけることはおこないますが、担任や引継ぎの先生では、PTAの広報誌は、すべてふりがなをつけておこなうのが望ましい
- ・役員決め時の配慮
→できそうな係を用意する
→中国語や英語ができる（日常会話だけでよい）保護者と一緒に進む

考えられる活動例

- ・文化祭での活動 外国のお茶、お菓子、料理などを出す
→自分の得意なことが活かせる活動を行う
- ・外国人保護者を囲む「座談会」
→学校のこんなところがわからない、こんな悩みを持っている、といったことをPTA役員と一緒に考える。
(通訳をつける)
- ・ある学校の日本語の先生は、教材に「保健だより」を使ったことがあり、実用的で、生徒だけでなく保護者にも喜ばれた。
「PTAのおたより」の内容の参考になる。

一方、PTAに対する外国人保護者の実情については、PTAという組織が母国にないことが多く、その存在を理解できない。理解できても生活に追われて活動できない。これは日本人家庭でも同じです。興味、余裕があっても言葉の壁のため参加できない。

そういった外国人保護者への配慮の例として、PTAの存在・活動目的や意義などを理解してもらうための案内を用意する。説明会の時に通訳をつける。PTA関係のお知らせや広報紙にふりがなをつける。その他、役員決めの際にできそうな係を用意したり、日常会話ができる保護者と一緒に進むといったことがあげられました。

また考えられる活動例では、文化祭で自国のお菓子、お茶などを出す。通訳をつけて外国人保護者「座談会」を開き、学校のこんなところ

がわからない、こんな悩みを持っているといったことをPTA役員と一緒に考える。PTAのたよりなどで日本のハウツーなどを載せる。


勉強会では、多くのヒントをもらい貴重な時間となりました。

4 アンケートの実施

勉強会を踏まえて、一気に「座談会」の開催も考えましたが、PTAの存在を理解できていないのではないかとということで、在県外国人生徒とその保護者にアンケートを行うことにしました。

対象と主な内容

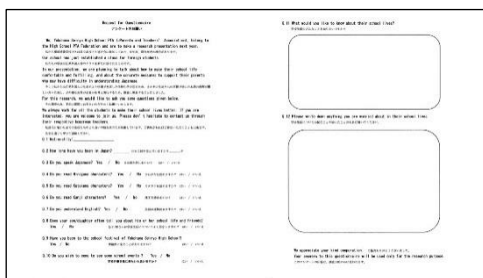
- ✓ 平成29年度と30年度に入学した
在県外国人生徒・保護者
- ✓ 学校生活について困っている
こと、学校行事を見に来たいと
思うかなど



こちらが生徒用のアンケートです。



こちらが保護者用アンケートです。



アンケート結果から① 生徒

Q3 部活に入っていますか?→「はい」と答えた方は何部ですか?

| ダンス部 | 国際交流部 | 自然科学部 | 剣道部 |
|------|-------|-------|-----|
| 1 | 4 | 1 | 2 |

※現2年生が1年生の時に回答したもの

Q7 横浜清陵高校に入学して良かったと思うことはありますか?

- 学校生活がすごく楽しくて、とまだちもいますから、勉強もわかりやすいです。学校のいろいろな活動をやっていますから、良かったです。
- 僕は日本語を話すようになりました。たくさん友だちをつきました。
- 学校行事はおもしろかったです。
- かけこい先生たくさんいます。

アンケート結果から② 保護者

Q8 息子/娘さんは学校生活についてよく話をしますか?

| はい | いいえ | 無回答 |
|----|-----|-----|
| 7 | 5 | 2 |

Q9 清陵祭に来たことがありますか?

| はい | いいえ | 不明 |
|----|-----|----|
| 2 | 11 | 1 |

アンケート結果から② 保護者

Q10 学校行事を見に来たいと思いますか?

| はい | いいえ | 無回答 |
|----|-----|-----|
| 7 | 5 | 2 |

「いいえ」と答えた方の理由:
自分のレストラをやっていますから時間はあまりないです。

Q12 学校生活について心配なことや困ったことがあれば書いてください。

- せっかく日本の学校で学ぶので、日本の友達たくさんできることを望みますが言葉等の問題で不安は多少あります。
- 日本語がまだわからないので、授業とか同級生の交流大丈夫かな心配しています。

5 学校行事を案内しよう

アンケートの結果を踏まえ、まずは、学校行事に参加してもらえれば、とその案内をるところから始めました。

今年の3月、平成30年度合格者説明会後の在県保護者懇談会で、「PTAについての案内」の時間を作っていただきました。通訳の方が来ていたので、ここがチャンスとばかりに・・・PTAの説明、体育祭、文化祭などを紹介し、保護者も学校へきてもらうように案内などを行った後、前年度と同じアンケートを実施しました。

在県保護者懇談会にて



PTAの説明などは、通訳の方にお願いました。

30年度合格者説明会後の在県保護者会で「PTAについての案内」の時間を作っていただきました。

合格者説明会後の在県保護者懇談会で案内したので、昨年より来校される在県外国人保護者が増えるのではないかと期待を込めて、9月の清陵祭で外国人保護者にも分かりやすい案内図を生徒会と合同で作成しました。

案内図上に置く情報として、出展名を日本語、英語、中国語で表記。パンフレットからの紹介を入れて、食べ物など種類によって色を分類します。作成準備として、まず生徒会にパンフレットデータを提供してもらいました。次に出展名の翻訳ですが、英語は英語科の先生に、中国語は国際交流部の生徒に手伝ってもらい、最後にできあがったものを案内図に貼ることにしました。

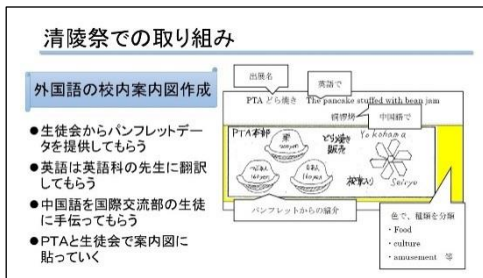


当日の様子です。本部のどら焼き販売スペース付近に案内図を設置しました。校内案内図を見ている人の多くは日本人と思われ、残念ながら外国籍の方のお役に立てたかどうか確認はできませんでした。

6 まとめ

国籍、文化の異なる生徒・保護者にすぐには何かできるものではありません。私たちは、実際に動き始めたばかりです。この先うまくいくかどうか分かりません。しかし、目を向けることが大切だと思います。

横浜清陵高校も2年目に入り、在県外国人生徒も2学年で20名に増えました。PTAに目を向けてくれる外国人保護者はいなさそうですが、私たちから働きかけ、いつか座談会の開催ができることを願っています。



案内図作成の様子です。9月20日の全日準備の時に作業を行いました。生徒会は他の準備があったため、貼り付けの作業は本部役員と先生で作業しました。使わなくなった校内案内図を再利用し、出展配置図を見ながら、貼っていききました。